

豊岡独自の重点的な取組み ※赤字は効果などのポイント

地域で複数人が、同乗して、公民館など趣味などを楽しめる場所へ移動を行う。

市排出量の4割弱をしめる運輸部門の削減に貢献

家庭用薪ボイラーでわかしたお風呂に入る。

家庭からの排出量の約3割を占める給湯からの排出量を削減

公民館などの公共空間に集い、趣味などを楽しみ、各家庭での冷暖房需要を削減する。

集まることで、楽しみながら、家庭の省エネに

冬は木質ペレットや薪ストーブを活用し、家族みんなで集まり過ごす。

冷房より長い期間利用する暖房からの排出量を削減

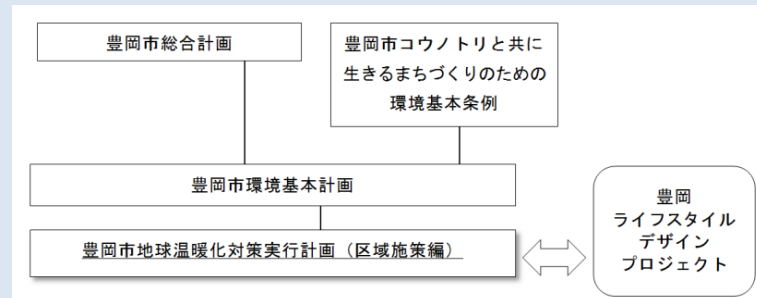
セカンドカーをEVに更新する。エネルギーは再生可能エネルギーでまかなう。

一定走行距離の移動をEVへ転換し、排出量を削減

＜市が取り組むこと＞
率先して再生可能エネルギーの導入を行う。

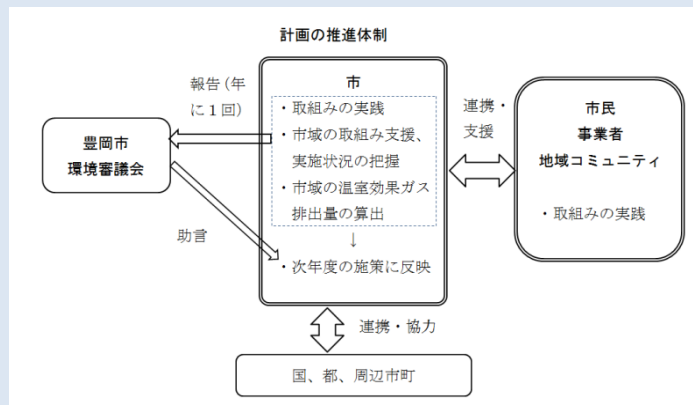
計画の位置づけ・推進体制

○基準年：2013年（平成25年）
○目標年：2030年（平成42年）
○計画期間：14年間
※社会情勢や技術の進展等、環境・エネルギーを取り巻く環境は急速に変化していくことを想定し、約5年ごとを目安に必要な応じて見直しを行うこととします。



○推進体制

計画の推進にあたっては、市が率先して取り組むを行うとともに、市民、事業者のみなさんが主体的に取り組むを行うこと、そして、必要に応じて、連携して、取り組みを進めていくことが重要です。



【進行管理指標】

市域のエネルギー消費量、各部門（産業部門、民生家庭部門、民生業務部門、運輸部門、廃棄物部門）の温室効果ガス排出量およびエネルギー消費量、1人あたりの温室効果ガス排出量およびエネルギー消費量、各部門の温室効果ガス排出量およびエネルギー消費量の原単位（産業部門：製造品出荷額あたり 民生家庭部門・廃棄物部門・運輸部門：1人あたり、民生業務部門：延床面積あたり）
再生可能エネルギー導入量、森林吸収量

【発行・問合せ先】

豊岡市役所 環境経済部 エコバレー推進課
〒668-8666 豊岡市中央町2番4号
TEL 0796-23-4480（直通）
FAX 0796-22-3872

豊岡市地球温暖化対策実行計画 区域施策編 概要版

私たちはかつて、日々、自然の恵みを受け、自然と共生し、生業や暮らしを営んでいました。しかし、私たちは、その暮らしをいつしか忘れ、高度経済成長や生活様式の変化により環境破壊が進んでしまいました。

豊岡市では、その反省をもとに、「自然との共生」を進めてきました。また、「環境経済戦略」にも取り組み、「共生」と「新しいものを生み出す革新」の両輪でまちづくりを進めてきました。

環境に関する基本的な総合計画である豊岡市環境基本計画では、日々を生活するうえで常に意識するものとして、「6つの合言葉（もったいない、ばちがあたる、ちょっとでも、つなぐ、心地よい、自信・誇り）」を掲げ、取り組みを進めてきました。

地球温暖化は、私たちの暮らしや生業が何十年と積み重ねて来た温室効果ガス排出の結果です。本計画が対象とする温室効果ガスの削減は、世界、そして日本の課題です。また、エネルギーは私たちの暮らしには欠かせないものであり、どう確保していくのか、またどう使いこなしていくのか、自分たちの問題として考える時を迎えています。

本計画の基本的な考え方として、6つの合い言葉を大切にしています。

もったいない

「もったいない」と感謝する意識を持ち、日本人は昔から物をとても大切にしてきました。暮らしの中で、どれだけのエネルギーや資源、人の手と時間を費やすのか考えることが、「もったいない」につながります。

ばちがあたる

自然の力などの目に見えない力に対して畏れの念を持ち、謙虚な心で過ごす。その心がけが、環境に負荷を与える行動のブレーキ役、自然と暮らしをつなぐ役割をはたします。

ちょっとでも

「やってもムダだ」と考えるのではなく、「ちょっとでも」と一人ひとりが自覚して、できることを積み重ねることが大切です。一人の日々の行動の一つ一つが地球温暖化防止につながります。

つなぐ

個人や一つのグループ、企業だけでは実現困難なことでも、他者や多様な主体がつながることで実現できることがあります。

心地よい

行動して成果が出たり、他者につながったり、自然とふれあいながら日々の暮らしを楽しむことは「心地よい」と感じられるでしょう。日々の心がけによって、豊岡ならではの心地よい暮らしが更に豊かになります。

自信・誇り

全国に先駆けて、コウノトリと共に生きるまちにふさわしい行動を当たり前のこととしてとっていること、それは豊岡の誇りです。豊岡型低炭素ライフスタイルは自信をもって世界に発信できます。

2030 年豊岡型低炭素ライフスタイルの特徴 5 つの柱

目標

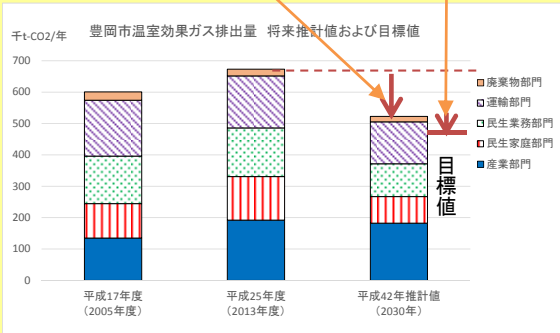
2030 年の市域の温室効果ガス排出量

2013 年度比 **−28.1%**

- ：現在国等が想定する対策実施 −22.4%
- ：豊岡型低炭素ライフスタイルの実現 −5.7%

現在実施されている取組みや想定される取組みを実施した場合の削減量

豊岡らしいライフスタイルを実現するための取組みを実施した場合の削減量



自然との共生・活用

豊岡の自然と共生し、太陽光、森林資源、風など自然の恵みに触れ、生活にとりこみます



大規模太陽光発電



ペレットストーブ

集い分け合う

家族や地域で、集い、ともに過ごし、分け合い、助け合って過ごしています



中筋地区での食の取り組み



地区の乗り合いタクシー (チクタク)

地産地消

豊岡で作られたものを食べ、生活に必要なものやサービスを出来るだけ豊岡市内で購入します



コウノトリ育むお米



豊岡市の田んぼ

かしこく使う

先人の知恵を生かし、少し手間をかけながら、かしこく、エネルギーを使います



豊岡エコハウス



玄さん元気教室

サービス創出

豊岡らしいライフスタイルをサポートする環境に配慮したサービスが生み出されています



電力の見える化 (HEMS)



電気自動車充電器

豊岡型低炭素ライフスタイルのために取り組むこと

本計画では、豊岡型低炭素ライフスタイルのための取組み例をライフシーン別、2030 年豊岡型低炭素ライフスタイルの特徴 5 つの柱別の取組み例を整理しました。

	自然との共生・活用	集い分け合う	地産地消	かしこく使う	サービスの創出	
家庭	- 太陽光発電、ペレットストーブなど再生可能エネルギーを導入する。 - 排出係数の低い事業者からの電力を購入する。 - 自然エネルギーの市民ファンドなどに参画する。 - 地域の木材を活用（構造材、内装、家具など）する。 - 市民農園など農林水産物に触れる機会を増やす。	- リビングなどで家族が一緒に過ごす。 - 仲間や他の家族と共に過ごす。 - 車を利用する際は相乗りする。 - 公共交通を利用する。	- 豊岡市の農林水産物を、積極的に選ぶ。 - 地元の店舗などで買い物をする。	- 日光や風を取り入れた住宅に住む。 - 早寝早起きをする。	- 断熱性能を高くする。 - エネルギーを見える化し、エネルギーの使い方を見直す。 - 近い場所へは徒歩や自転車で移動する。 - エコドライブをする。	豊岡産のサービスを選択する。
工場						電力利用等がピークになる時刻に公共・共用空間への外出を促すサービスを提供する。
商業施設・事務所		公共空間や空きスペースを活用した集う場所を提供する。特に、電力利用等がピークとなる時刻に公共・共用空間への外出を促す。		地域の文化を大切にしながら環境負荷の小さい建物に改修する。	- 家電製品等更新時に省エネ性能の高い製品を導入する。 - 電気自動車など環境負荷の小さい車両を選択する。	
観光地・旅館						環境サービスを事業化する地域の人材育成を行う。
自治会やご近所などの地域コミュニティ						
市や学校	市民、事業者の再生可能エネルギー導入を支援する。					
田畑・森林・海	地域が主体的に森林整備をする。	- 休日などは、地域の自然の中で過ごす。 - 地域外の人にも、豊岡の自然に親しみ関わってもらう。				環境負荷の小さい生産工程の開発やLED集魚灯、バイオ燃料などの技術を導入する。